

令和3年度 第4回東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会 ＜議事要旨＞

1 会議概要

- (1) 開催日時 令和3年12月23日（木曜日）10時00分から12時00分まで
- (2) 開催方法 オンライン開催

2 議事内容

下記の専門研修に係る検討事項について、事務局より資料4に基づいて説明し、意見交換を実施

(1) 専門研修全体のねらいについて

【主な意見】

《ピアサポーターとしての専門性について》

- ・「専門性」と「専門職」という言葉が似ているので、受講者が混同してしまう可能性がある。両者を区別するためにも、「専門性」のところは、しつこいかもかもしれないけれど「ピアサポーターとしての専門性」と表現したほうが、誤解を生まないのではないか。

《ピアサポーターに目指してもらいたいセルフケアについて》

- ・自己管理の方法を身に付けることについて言及されているが、少し分かりづらいので、もう少し丁寧な説明が必要ではないか。

(2) 専門研修の各項目について

【主な意見】

《「ピアサポーターの基礎と専門性」の項目について》

- ・「障害にとらわれずにありのままの自分らしく生きる（リカバリー）」の概念について、リカバリーは、プロセスが大切な概念なので、「生きようとする」などのように、過程を含んだ表現のほうが良いのではないか。

また、「障害を受け入れながら」又は「障害を受け入れて」としたほうが、障害を持ちながら生きる当事者の葛藤が表現できていて、しっくりくる場合もある。

→障害体験による先入観で、自分の人生を狭めて考えてしまったり諦めてしまったりすることから解放されて自分らしく生きる、というニュアンスで、「障害にとらわれずに」という表現が良いのでは。

(→事務局補足：リカバリーの概念説明についての議論は、委員会終了後に改めて意見を募った。その結果、「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」（リカバリー）とした上で、講義当日に丁寧な説明を講師よりいただくとの結論となった。)

- ・「経験を振り返り言語化すること」（リカバリーストーリー）について、「言語化」だと表現がやや固いので、「言葉にしてみる」という表現に置きかえてはどうか。

《「セルフマネジメントとバウンダリー ～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～」の項目について》

- ・ピアサポーターが葛藤しやすい状況として、「スタッフになりきれない」や「自分は当事者らしくない」ということが挙げられているが、少し受講者がイメージしにくいのではないか。

例えば、相談支援の現場で、障害の重さによって障害が重いと「あの人は障害エリート」などという言い方をする人がいれば、片や障害が比較的軽くてピアサポーターとして従事している立場としては、自分は障害者・当事者らしくないと思って葛藤する方もいるのでは。こうした想定例を、丁寧に説明できると良い。

《「チームアプローチ」の項目について》

- ・チームワークの説明について、一緒に力を合わせて、とのニュアンスが入れられると良い。『協働』ということが研修のテーマにも入っているので。